



2 主な施策の取組状況

重点戦略3 呼び込み・拓く



(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-1 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 自宅で農村体験ができる「おうちでおためしキット」を開発・販売

- ・ コロナ禍において、在宅の農村ファンを創出するため、農村地域で実施している体験メニューが自宅で楽しめる「おうちでおためしキット」の開発・販売を支援しました(下表の10商品)。
- ・ キットには、実際に農村を訪れて農産物の収穫や釣り等を楽しんでいただくための体験チケットも同封されています。



【おうちでおためしキット10商品】

- ・ 多肉植物寄せ植えキット
- ・ 和紙の「押し絵」セット
- ・ そば作りセット
- ・ 手作りいちごジャムキット
- ・ 手作り巨峰ジャムキット
- ・ おうちでおふくちゃんセットキット
- ・ 自家製バター作りキット
- ・ テンカラ毛針作りキット
- ・ 手作り豆腐セットキット
- ・ まゆクラフトセット

(農村振興課)

○ 農村と人のご縁をつなぐ交流サイト「TUNAGU(つなぐ)」

- ・ とちぎの農村と、農村や地域貢献に関心のある人や企業等をマッチングする交流サイトを開設しました(令和3(2021)年10月)。
- ・ 交流サイトで希望する活動に応募し、地域住民との活動や交流を重ねながら、農村ファンになってもらう仕組みです。
- ・ 活動を「クエスト」と名付け、ゲーム感覚でクリアする課題として設定し、若者が興味を持ってもらえるよう工夫しています。



TUNAGUトップページ



竹林整備活動に参加する若者

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
 機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-2 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ ひと×コト×sakana 栃木PRアンバサダー

- 栃木の漁場を愛する影響力の高い釣り人の方々を農村振興課SNS「ひと×コト×sakana」のPRアンバサダーとして任命しました。
- アンバサダーの方々には、釣りを通して、県内各地域の魅力や実力を積極的にPRいただいております。
- 栃木の魅力的な水産資源を活用して、釣り人で溢れる地域づくりを目指します。



ひと×コト×sakana 栃木PRアンバサダー
 栃木をこよなく愛する様々なスタイルのアンバサダーの方々と魚を通じて、栃木の新たな魅力を発信していきます。



アンバサダー紹介ポスター



アンバサダーによる投稿

(農村振興課)

○ なががわ水遊園 開園20周年

- 栃木県なががわ水遊園は、令和3(2021)年7月15日に開園20周年を迎えました(総入館者数500万人達成)。
- 20周年を記念した式典と企画展は、本県が誇る那珂川と川魚の魅力を、多くの方々に改めて感じていただく機会となりました。
- 施設リニューアルにより魅力度もアップ。今後も自然とのふれあいや都市農村交流の拠点として地域に貢献していきます。



20周年記念式典の様子



那珂川と日本の淡水魚をテーマにした企画展

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-3 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 満員御礼！河内のグリーン・ツーリズム(河内地域)

- グリーン・ツーリズムのイベントチラシを年2回作成し、河内教育事務所を通じ管内の小学生全員に配布しています。
- 令和3(2021)年度は1事業者が新たに参画しました。どのツアーも盛況で、日程を追加するなどして参加者の増加に対応しています。



グリーン・ツーリズム イベントチラシ



農業体験ツアー

(河内農業振興事務所)

○ 食の街道と観光いちご園との連携によるSLイベントの実施(芳賀地域)

- いちごの日(令和4(2022)年1月15日)に、いい芳賀いちご夢街道のキャラクターをヘッドマークに付けた「おとちゃんいちごSL」と、益子町観光協会の「駅からいちご狩り」のコラボ企画を実施しました。
- 乗客に「駅からいちご狩り」の対象観光いちご園の割引券を配布し、いちご園への誘客を促しました。乗客の半数以上の方に観光いちご園をご利用いただき、地域内の周遊につながりました。



おとちゃんいちごSL



いちごの駅 北山駅

(芳賀農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-4 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ いちご狩り写真投稿キャンペーンの実施(芳賀地域)

- 新型コロナウイルスの影響で昨年度の利用者が大幅に減少した観光いちご園への誘客を図るため、SNS(Instagram)を活用したPRを実施しています。
- いちご狩り写真投稿キャンペーンでは、年齢や地域を絞ったターゲティング広告を配信し、効果的なPRを行いました。



Instagramで発信！



キャンペーンチラシ

(芳賀農業振興事務所)

○ 現地集合・現地解散型グリーンツーリズムの実施(塩谷南那須地域)

- 新しい生活様式に対応したグリーンツーリズムの一形態として、(一社)きつりずむが現地集合・現地解散型の周遊ルートの設定とツアーを実施しました。
- 10組24名の参加者は、案内マップ等をもとに自家用車で体験ポイント間を移動し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、木工体験やりんご狩り、喜連川の城下町散策などを楽しみました。



一輪挿しなど木工体験を実施



観光りんご園での摘み取り体験

(塩谷南那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-5 農村地域における関係人口の創出・拡大

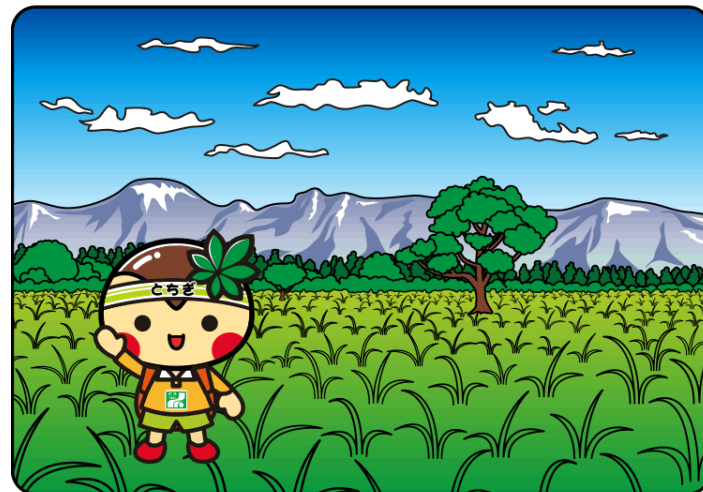
○ 塩原アウトドア関係者連絡協議会の設立(那須地域)

- 令和3(2021)年6月、アウトドア関係事業者を中心に、観光関係者、グリーン・ツーリズム実践者等を構成員として協議会が設立されました。
- 協議会では、アウトドアと農業、観光が連携した受入体制の整備やツアーの実施など、アウトドアを塩原地区の農村環境の維持発展、地域活性化に結びつける仕組みづくりを目指しています。



先進地視察のようす

(那須農業振興事務所)



(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-1 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 「とちぎの農村めぐり2021」による農村の魅力発信

- オリジナルキャラクターの村野兄妹が「栃uber(とちゅーばー)」となって、とちぎの農村の魅力と楽しみ方を紹介する動画を配信しました(156万回再生)。
- 農産物直売所や農村レストランをはじめとした農村地域の魅力スポットをめぐる「農村わくわくスマホラリー」を実施し、多くの人にとちぎの農村の魅力を伝えることができました(2回、延べ145施設、1,888人参加)。



公開した動画

ぜひフォロー
してください♪



InstagramのQRコード

(農村振興課)

○ 農業高校生等がグリーン・ツーリズムを学ぶ「入門塾」の実施

- 将来、グリーン・ツーリズムに携わる人材の確保・育成を図るため、グリーン・ツーリズムの現状や魅力を学ぶ「入門塾」を実施しています。
- 令和3(2021)年度は、農業高校生・農業大学校生に加え、大学生や社会人を対象に12回開催しました。
- 受講者からは、「将来、地元で取り組んでみたい」、「農業を通して人と関わることに魅力を感じた」といった意見が出されました。



講座の様子



現地視察の様子

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-2 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 栃木県グリーン・ツーリズムネットワークに分科会を設置

- ・ 栃木県グリーン・ツーリズムネットワークは、グリーン・ツーリズム実践者を中心に構成される組織です(会員数150)。
- ・ 今後のグリーン・ツーリズム推進と会員間の連携強化を目的に、新たなツーリズム及び県外プロモーションを研究テーマとした2つの分科会を設置しました。
- ・ 農村地域への誘客促進に向け、体験コンテンツの充実や効果的なプロモーションの重要性について話し合いました。



分科会での検討の様子



メンバーが活動するフィールドでの検討の様子

(農村振興課)

○ SNSによる農業・農村の魅力発信(河内地域)

- ・ 河内農業振興事務所は、Facebook「かわちわくわくちゃんねる」による情報発信に取り組んでいます。
- ・ 令和3(2021)年度は、地域内の食と農に関する取り組みなどを月10~20件程度投稿し、リーチ数は増加傾向です。



Facebook「かわちわくわくちゃんねる」

(河内農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-3 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農泊等の受入体制強化(上都賀地域)

- 鹿沼市では、令和3(2021)年5月3日に市や市観光協会、グリーン・ツーリズム実践者等をメンバーとした「かぬまいい旅推進協議会」が設立されました。
- 市内の地域資源を活用し、市の大部分を占める農山村地域を中心に地域の活性化を図るため、農泊取組の検討を進めています。
- 今後実践活動として、都市住民を対象としたモニターツアーを行う予定です。



農泊推進会議



地域資源調査

(上都賀農業振興事務所)

○ 農業者等とホテル事業者の連携に向けたマッチング活動(上都賀地域)

- コロナウイルスの影響によりホテルの客層が団体客から個人客へシフトしつつあるといわれ、宿泊事業者は個人客の農業体験ニーズの把握や掘り起こしに関心を示しています。
- そこで、日光市のグリーン・ツーリズムを実践する農業者への現地視察会等により、農業者等と宿泊事業者の連携に向けたマッチング活動を行いました。
- 今後、それらの連携による体験プログラムの開発を検討していきます。



現地視察会①



現地視察会②

(上都賀農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-4 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ スマートフォン等を活用した動画発信研修会の開催(芳賀地域)

- ・ 農業者や観光農園の経営者等が、農村の魅力や商品を効果的にPRする方法を身につけるため、利用の広がる動画編集の研修会を開催しました。
- ・ 第1回はスマートフォンを使用し、撮影から編集、発信まで完結できる手法を、第2回はパソコン使用し、動画編集技術を中心に講義と実技を行いました。
- ・ 参加者からは、研修はとてもわかりやすく、今後に生かしたいなどの意見が多く大変好評でした。



研修会の様子



個別指導の様子

(芳賀農業振興事務所)

○ ECサイト活用による「ご当地お宝便」の取組(塩谷南那須地域)

- ・ 塩谷地域食の街道推進協議会では、インターネットを活用した特産品の販売促進と地域の魅力発信として「ご当地お宝便」の企画、実施に取り組みました。
- ・ 塩谷地域の4市町の地域特産品を詰め合わせたコラボ便の商品構成検討や、オンラインでの受注から発送、代金決済までの仕組みを新たに構築しました。



道の駅関係者を交えた地域特産品の商品構成検討



ご当地お宝便の販促リーフレット

(塩谷南那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-5 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 北那須産直連絡会イベントの開催(那須地域)

- ・ 那須地域では、ご先祖様を迎えるための行事の一つとして、毎年8月1日にたんさんまんじゅうを作ってお供えし、自分たちも食べるという風習があります。
- ・ 北那須産直連絡会では、那須地域の風習をPRするため、管内の直売所で販売するたんさんまんじゅうを栃木県職員生活協同組合のイベントコーナーで販売し、200個がすぐに完売となりました。
- ・ 今後も北那須産直連絡会の活動を支援していきます。



販売の様子

(那須農業振興事務所)

○ 那須の菜の花プロジェクトで菜種油の活用を検討(那須地域)

- ・ 那須の菜の花プロジェクトでは、菜の花による景観形成で誘客を図り、都市農村交流を進めてきました。
- ・ 令和3(2021)年度は、菜の花の新たな活用方策を探るため、採取した菜種から菜種油を搾油しました。
- ・ 菜種油を使った料理をマラソン大会参加者に試食してもらい、アンケート調査を実施しました。
- ・ アンケート結果を活かし、今後の活用(販売・利用)方策を検討しています。



菜種油



菜の花畑

(那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-6 農村地域での新たな所得機会の創出

○ 中山間地域の農業振興に向け、青パパイヤ活用のレシピを開発(安足地域)

- 中山間地域での振興のため、鳥獣害に遭いにくい作物の一つ、青パパイヤが佐野市を中心に約2.3ha栽培されています。
- 青パパイヤは消費者になじみが薄い食材であることから、安足農業振興事務所では手軽に調理でき、若者に人気のあるサンドイッチのレシピ開発をしました。開発協力店では、一か月に250個売り上げる人気商品となりました。



人気商品のソムタムサンドイッチ



青パパイヤ

(安足農業振興事務所)

○ 「閑援隊」の協働活動による佐野市中山間地域の活性化(安足地域)

- 中山間地域である佐野市閑馬地区の活性化を目指し、地域住民が中心となり「閑援隊」が結成されました。
- 「閑援隊」は、遊休農地を利用し、田植え、稲刈り、甘茶の栽培、山羊の放牧などの協働活動を通じ、住みやすい環境づくりに取り組んでいます。
- これらの活動は、SNSやPR動画にて発信し、地域の魅力向上を図っています。



田植え



動画撮影風景

(安足農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-1 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 農地情報バンクを活用して遊休農地を解消（安足地方）

- 足利市農業委員会では、遊休農地の解消・発生防止・有効利用を図るため、農地の売買・貸出希望情報を発信するWEBサイト「農地情報バンク」を平成30(2018)年7月に開設しました。
- これまで登録された約4.0haの遊休農地のうち、約2.1haが再生利用されています。
- 足利市北郷地区では、新規就農者により、約80aの遊休農地が解消され、水稻の作付けが行われました。



再生前



再生後

(農政課)

○ 土地改良区(連合)の会計処理に係る緊急点検の実施

- 土地改良区(連合)の更なる運営の適正化を図るため、県内全ての土地改良区等を訪問し、通帳や現金の保管状況等についてチェックリストを用いて集中的に点検し、適正な会計処理の実施について指導・助言を行いました。
- 今後も、土地改良区(連合)に対して、財務状況を正確に把握するための複式簿記会計や、不正防止に向けた外部監査等の導入を促進し、土地改良区(連合)の運営の適正化に取り組んでいきます。



聞き取りによる
会計処理状況の確認

適正な会計処理のためのチェックリスト

項目	注	状況	チェック欄	備考
① 会計担当課(会計担当者が不在の場合は、専事長等)は、全ての会計について、関係者の会計出納簿と現金預金簿及び保管簿の取合を把握しているか。(会計規則第42条)				
② 関係の職員を監視している土地改良区等においては、専事長の指図及び権限の範囲を全ての会計について、関係職員に知らせているか。				
③ 会計簿の備は、購入、金額の記録の備は、振込及び取付口の記録について、専事長の指図を帯いているか。(会計規則第25条)				
④ 不適正な会計処理が行われていないかを、確認しているか。(会計規則第48条)				
⑤ 関係通帳(現金簿)、収支簿、印字簿、口座振替の取合簿との取合(印字簿等は、連日又は毎週必ず取合されているか。また、印字簿は関係職員等に取合されているか。				
⑥ 専任職員を有していない場合は、関係は会計課等に渡し、関係の取合は確保されているか。また、取合を行う関係職員を定めているか。(会計規則第30条)				
⑦ 前年度決算は、担当者に任せることなく、専事長や会計担当課、移り職員等、連立人の協議による確認を行っているか。				
⑧ 守帳簿、収支簿(6ヶ月、12ヶ月有印簿)等に対して、現金通帳(定期預金を含む)、銀行等の利用する関係取合簿と金額出納簿との取合を全ての会計について実施しているか。(会計規則第30条)				
⑨ 通帳と金額出納簿の入出金の簿籍を整合しているか。				

*このチェックリストは、県一環営する事業ではありません。土地改良区関係での確認にのみ適用されます。

83.10 栃木県農林振興課

通帳・公印等の
保管状況のチェック
(農地整備課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-2 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 次世代型生産基盤技術導入指針の活用による基盤整備の推進

- 将来にわたって担い手が活躍できる生産性の高い基盤づくりを推進するため、「ほ場の大区画化」や「ICTを活用した水管理システム」などのスマート農業に対応した次世代型の生産基盤技術を導入できるよう指針を策定しました。
- 今後は、指針に基づき、市町や土地改良区等に対し、研修会や動画の活用により、技術への理解促進を図りながら、スマート農業に対応した基盤整備を計画的に進めていきます。

次世代型生産基盤技術導入指針

～将来にわたって担い手が活躍できる
生産性の高い基盤づくりを目指して～



指針の紹介動画
についてはこちら
をご覧ください

農政部Youtubeチャンネルに
指針の紹介動画を掲載



大区画ほ場でのロボットトラクター
2台協調作業（下野市）

（農地整備課）

○ 鹿沼市土地改良区設立(上都賀地域)

- 事務処理を統合し、専任の職員を配置することにより、業務の質的向上が図られ、また、総会や理事会が一本化され、運営経費や事務労力の低減が図られています。
- 組織運営基盤の一体化により、計画的かつ効率的な維持管理体制を確立するとともに、災害時における緊急的な工事に対する体制強化につながっています。



合併予備契約調印式
(令和2(2020)年9月)



土地改良区理事会

(上都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-3 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 手上げ方式による自動給水システムの導入（芳賀地域）

- 芳賀町北部第2地区では、ほ場整備に併せ、水管理の省力化が図れる自動給水システムの導入を進めています。
- 推進に当たっては、システムの効果を周知するため、勉強会や事業説明会を開催し、農業者の関心を高めました。
- 令和4(2022)年度産からは、希望のあった担い手5名・約7haへの導入が決まり、こうした事例を広く周知することにより、引き続き、地区への導入を促進していきます。



担い手を対象とした勉強会での実演



地元説明会による手上げ方式の説明

(芳賀農業振興事務所)

○ 県営ストマネ事業による国営芳賀台地施設の機能保全(芳賀地域)

- 国営かんがい排水芳賀台地地区(平成14(2012)年度完了)に整備された菅又揚水機場は、造成から約20年が経過し、経年劣化が進んでいました。
- このため、機能診断計画に基づき、令和3(2021)年度に菅又揚水機場の整備補修を実施しました。
- 今後とも計画的に施設の機能を保全し、長寿命化を図ることで、維持管理を含めたライフサイクルコストの低減を図ります。



ポンプ据付確認



操作盤類機能診断

(芳賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-4 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 芳賀台地の水で潤う農業（芳賀地域）

- ・ 国営芳賀台地地区は、市貝町外1市3町に跨る水田、畑地の用水不足を解消するため、昭和62(1987)年度～平成14(2012)年度に整備されました。
- ・ 地区内の関連事業として、令和3(2021)年度は里西・星の宮地区で県営ほ場整備事業の計画作成に取り組んでいます。
- ・ 取組の一環として、地区内にかんがい水を使った展示ほ場を設置し、畑地への園芸品目の導入を推進しました。



推進展示ほ場



いもほり大会

(芳賀農業振興事務所)

○ 県営塚崎・東野田(区画整理)事業権利者会議を開催(下都賀地域)

- ・ 小山市南西部に位置する塚崎・東野田地区では、平成27(2015)年度から区画整理事業98.7haが実施され、低コスト農業の展開が可能となる条件整備を図るとともに担い手の育成及び農地集積を行ってきました。
- ・ 令和3(2021)年度は、事業により整備された土地の権利を確定するための権利者会議が開催され、出席者272人全員の賛成により換地計画決定の議案が可決されました。
- ・ 今後は、換地処分及び登記に向けた手続きを進めていくこととなります。



権利者会議の様子



整備されたほ場

(下都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-5 担い手が活躍する効率的な生産基盤の整備

○ 水利施設の改修による生産基盤の整備（塩谷南那須地域）

- 日光市高德の鬼怒川に設置された船生頭首工や引水している船生用水、平作堀用水は、老朽化により通水機能が低下しています。
- 令和元(2019)年から改修工事に着手し、農業用水の安定供給を図っています。
- この事業を契機に、担い手農家への農地集積や、高収益作物の作付け面積を増やすこと等により、安定的な農業経営を図ることとしています。



改修前（現在）の船生頭首工及び船生用水

（塩谷南那須農業振興事務所）

○ 暗渠型排水路の導入推進（那須地域）

- 那須農業振興事務所管内で実施している農地整備事業においては、営農の効率化や維持管理の軽減を図るため、次世代型生産基盤技術である暗渠型排水路を導入しています。
- 令和3(2021)年度には、設置後の路線において土砂の堆積状況について現地検証を実施した結果、土砂の堆積は確認されませんでした。維持管理を行う大田原市土地改良区からも好評で、今後も導入を進めていきます。



暗渠型排水路施工中



暗渠型排水路施工後

（那須農業振興事務所）

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-6 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 佐野市の圃場整備の本格化（安足地域）

- ・ 佐野市では、馬門地区に続き令和3(2021)年度から赤城地区においても圃場整備が開始されました。
- ・ 全体整備面積は馬門48.9ha、赤城36.4haで、本年度は2地区で面工事が実施されました。
- ・ 今後、圃場整備と合わせ、情報通信技術(ICT)を活用したほ場水管理システムを導入し、効率的な営農が展開される予定です。



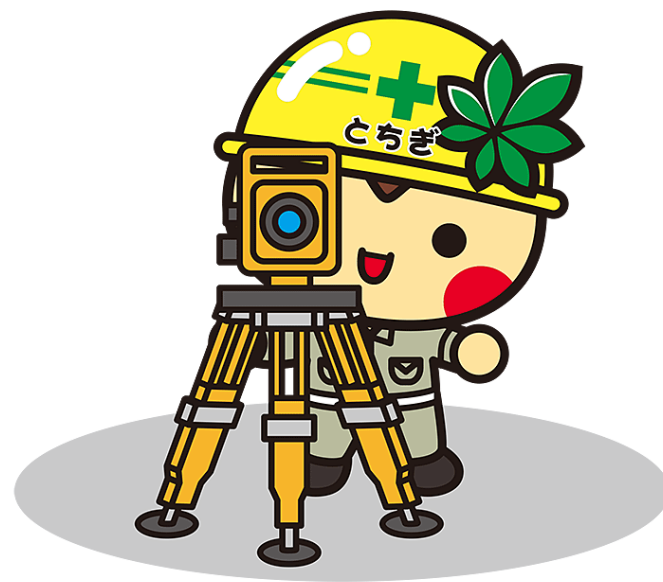
整備前後の馬門地区

※東西に走る農道から北が整備後、南が整備前



赤城地区の起工式

(安足農業振興事務所)



(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-1 地域資源の保全と活用

○ 高機能草刈機のデモンストレーション(小山市 思川西部農村環境保全会)

- 令和3(2021)年10月18日に、多面的機能支払活動における草刈り作業の省力化や安全性の確保に向け、高機能草刈機(リモコン式、トラクタ装着式、乗用式、手押し式など6種類)の実演会を開催しました。
- 参加者からは、「作業負担の軽減や作業の効率化に向けては、高機能草刈機の導入や共同利用が必要」との声が聞かれ、今後の草刈機等の導入により、作業の更なる省力化につながることを期待されます。



メーカーによる草刈機の説明



草刈機の実演

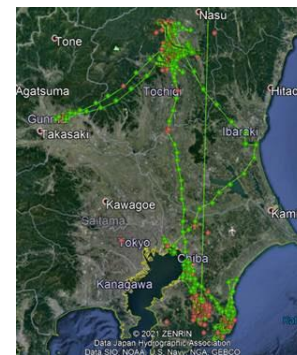
(農村振興課)

○ GPSロガーを使用したカワウの調査

- アユやマス類などを捕食するカワウへの効果的な対策を検討するため、GPSロガーを用いた行動範囲調査を行いました。
- カワウは、時期ごとに餌場とする河川を使い分けていることや、中には季節ごとに関東平野を広く移動するものがあることが明らかになりました。
- 今後は、漁協の範囲をまたいだ協力や関東各都県との連携の強化を進めます。



GPSロガーを装着したカワウ



カワウの行動範囲

(農村振興課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-2 地域資源の保全と活用

○ 農業被害防止サポーター事業の開始

- 鳥獣による農作物被害対策については、品目や獣種、地域の実情等に応じて適切な対策を講じる必要があります。
- このため、農業者等からの相談に迅速かつ的確に対応できるよう、鳥獣管理士などの専門家を派遣し、具体的な対策について指導・助言を行っています。
- 令和3(2021)年度は、11地区に専門家を派遣し、侵入防止柵の新設や設置場所等の改善、集落ぐるみによるサルの捕獲等の取組などが開始されています。



講習会への鳥獣管理士派遣 鳥獣管理士によるわな設置指導

(経営技術課)

○ 畜産環境研修会の開催

- 堆肥の生産技術向上や、環境負荷軽減等の新たな技術の共有を目的として、オンライン研修会を開催しました。
- 研修会では、畜産現場における堆肥生産技術のポイントや、昨今の肥料制度改正に伴う堆肥の流通拡大についての講演と、アミノ酸バランス改善飼料給与による温室効果ガス削減の取組及び牛ふんペレット堆肥の事例を紹介しました。
- 今後は、堆肥の利用拡大を始め、環境負荷軽減についても技術の普及に努め、畜産経営の持続的発展を支援していきます。



オンライン研修会の様子

(畜産振興課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-3 地域資源の保全と活用

○ 多面的機能支払交付金の災害復旧活動への活用(芳賀地域)

- 益子町では、令和3(2021)年7月10日～12日の大雨により、畦畔や道路法面の崩落など、小規模な災害が多数発生しました。
- 個人や集落で管理している農地や水路などに発生した小規模な災害に対して、多面的機能支払交付金を活用した共同活動に取り組んだことで、いち早く復旧が進み、早期の営農再開につなげることができました。



畦畔の被災状況



地域共同による復旧作業

(芳賀農業振興事務所)

○ きめ細かな鳥獣害対策支援(塩谷南那須地域)

- 増加する鳥獣害対策として、獣類の特定や出没状況を把握するためのセンサーカメラの設置支援を行いました。
- また、鳥獣管理士と連携し、研修会、現地検討会を開催するとともに、集落点検による課題抽出と被害対策への意識の醸成、対策実施計画の立案に対し助言を行いました。
- 塩谷町では、害獣の侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵)整備に取り組み、被害が減少しています。



ドローンでの出没状況確認



集落点検活動

(塩谷南那須農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-1 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 農村地域の雨水流出抑制対策を推進

- 流域の関係者が一体となって、営農への影響を踏まえ、農村の「ためる」機能に着目した雨水流出抑制対策(河川に一気に雨水を流さない対策)を進めています。
- 令和3(2021)年度は、河川管理者や専門家を加えた検討会を開催し、思川流域の一部における基本指針(素案)を作成しました。
- 今後5年間で県内3流域(田川・思川・荒川)におけるハード・ソフト対策の計画的な実施に向けた検討を進めていきます。



農村の「ためる」イメージ



基本指針策定検討会

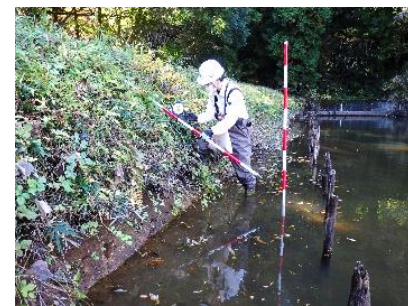
(農地整備課)

○ 「防災重点農業用ため池」の健全度評価の実施を支援

- 決壊した場合に下流域に大きな被害を及ぼす恐れがある「防災重点農業用ため池」(180施設)を対象に、市町による健全度評価の実施を支援しました。
- 113施設の評価の結果、対策工事が必要とされたため池については、管理者による対応が着実に実施されるよう、必要な支援を行うとともに、引き続きすべてのため池の評価を進めていきます。



堤体地盤状況の確認
(ボーリング調査)



堤体浸食状況の確認
(堤体断面測量)

(農地整備課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-2 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 「とちぎため池保全サポートセンター」が開所

- 令和3(2021)年7月、水土里ネットとちぎ内に「とちぎため池保全サポートセンター」が設置されました。
- サポートセンターには、専門の技術者による相談窓口が設置され、施設管理者を対象に、ため池の補修や点検、管理体制づくりなどへの助言や災害の未然防止に向けた技術指導等を行っています。
- 県では、今後ともサポートセンターの活動を支援するとともに、農業用ため池の防災対策強化に向けた取組を推進していきます。



サポートセンター開所式

(農地整備課)

○ 農村地域の防災・減災を担う西前原排水機場が完成(下都賀地域)

- 令和3(2021)年12月、施設が老朽化し排水能力が低下していた西前原排水機場の改修工事が終わりました。
- 排水機場は、集中豪雨などの猛烈な雨が降った時に農村地域の湛水被害を防止する重要な役割を担っています。
- このため、新しくなった西前原排水機場の機能が十分発揮できるよう、日常の維持管理や、水路へのゴミ捨て防止の周知など、地域ぐるみの取組を進めていきます。



外観



内部

新しくなった西前原排水機場

(下都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-3 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 老朽化施設の改修による災害の未然防止 (塩谷南那須地域)

- ・ 那須烏山市内を流れる一級河川那珂川内に設置している「境堰」は、大雨などによって堰本体が損傷し、農業用水の取り入れができない状態が続いています。
- ・ また、大雨時には堤防決壊による洪水被害など広範囲に被害がおよぶ危険性がありました。
- ・ このため、令和2(2020)年度より改修工事に着手し、令和3(2021)年度に完成しました。



損傷を受けた境堰



改修工事が終わった右岸側

(塩谷南那須農業振興事務所)



(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④-1 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 豊かなむらづくり全国表彰・農林水産大臣賞を受賞(芳賀地域)

- さかがわ協議会は、地域の交流拠点であるいい里さかがわ館の管理運営や焼森山ミツマタ群生地整備等を行っています。
- 令和2(2020)年度にはいい里さかがわ館への来客が約13万人を記録し、地域住民の所得向上や就労機会の創出、生活の利便性向上等、地域の活性化に大きく貢献しました。
- このように、地域活性化の成果をあげたことが高く評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。



表彰状授与の様子

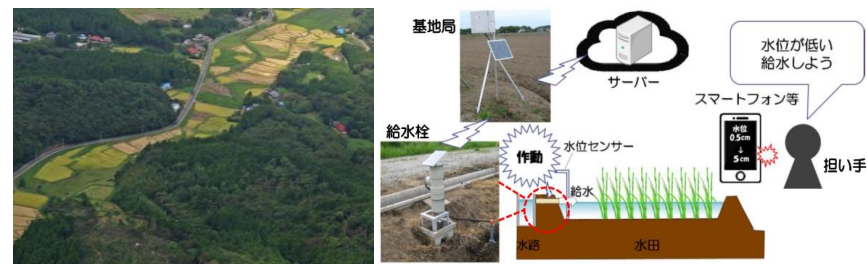


さがわ協議会の代表者

(芳賀農業振興事務所)

○ 中山間地域農業農村総合整備事業茂木地区の事業計画(芳賀地域)

- 中山間地域の傾斜地に適合した圃場や水路の整備を進めることで、優良農地の創出、生産性の向上、耕作放棄地の発生防止、農地の流動化など、次の世代につながる地域農業を目指しています。
- また、農作業の省力化・軽労化を図るため、用水路へのICT自動給水栓の設置などスマート農業技術を積極的に取り入れた事業計画づくりを進めています。



中山間の茂木(菅又)地区 ICT自動給水栓の設置イメージ

(芳賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④-2 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 活性化施設による地域交流促進(塩谷南那須地域)

- ・ 県営中山間総合整備事業(馬頭中部地区)により、令和3(2021)年5月に活性化施設(那珂川町和見)が完成しました。
- ・ 活性化施設は、農業関係者、地域自治会等の活動拠点として利用されています。
- ・ 地域農業の将来等についての話し合いを行うとともに、地域住民の交流の場として地域の活性化に寄与しています。



整備された活性化施設



地元自治会による内覧会
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 道の駅東山道伊王野における組織力・販売力の強化(那須地域)

- ・ 道の駅東山道伊王野では、設立から20年を迎え、持続的な運営体制の強化を図るため、令和5(2023)年の法人化を目指しています。
- ・ また、野菜の出荷量が減る冬期の販売力向上を図るため、令和3(2021)年12月から地元食材を活用したパンの製造・販売を開始しました。
- ・ 今後も地域の拠点施設として、更なる発展が期待されます。



検討会の開催



パンの販売
(那須農業振興事務所)